

令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 待賢 幼稚園）

教育目標

「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」

- 自己を発揮する子ども 人とつながることを喜ぶ子ども 主体的に遊ぶ子ども

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">日々の遊びの中で、生きる力を育むことを念頭に、一人ひとりの個性や発達を大事にしながら育ちを支えてきた。一人ひとりの育ちや集団の育ちを丁寧に見取り、必要な教育内容を考え、質の高い保育を目指してきた。子どもの豊かな学びと健やかな成長を中心据えた保幼小中連携、とりわけ幼小接続に向けた取組を継続・発展していくことが大切である。これから激動の時代を生き抜く子どもを育むには、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育むことが重要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、これまで当然行ってきた保育の方法やあり方、行事などについて中止にしたり変更したりして取り組み、取組の数や量ではなく、保育の本質について問い合わせながら実施してきたことが、今後の保育のあり方や方向性において大変重要な意味を持っている。園児が減少してきているが、「すべての子どもの遊びを通した学びを保障することを念頭に、誰もが入園できる間口の広い受け皿としての特色を打ち出す」とよいのではないか。教育現場で、経験知の高い先輩教員から若い教員が学び成長し、様々な先進的な教育実践を行う幼稚園として、核となって他園に波及させていくべきではないだろうか。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月28日	学校運営協議会 理事
最終評価	令和3年3月10日	学校運営協議会 理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 幼児が主体的に遊ぶ姿を環境構成等から考え、日々の保育の援助（支援）を探る。
＊安心、安全、主体性を重視した園の環境が生かされる保育環境づくりを通して
- ・計画性をもった保育の取組とねらいを明確にした週案の作成

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討）・アンケート結果「91%」	
自己評価	
分析（成果と課題）	
	<ul style="list-style-type: none">・研究主題にある「主体的に遊ぶ子どもの姿を探る」を考えていくことは、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。
分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none">・教師が願いをもって環境を構成したり、遊びを援助したりすることが、主体的に遊ぶ子どもを見取る保育につながっている。2学期以降も子どもの遊びに願いをもって取り組んでいく。
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	
	<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討）・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと、活動の「質」を根底から問直し、できることに取り組んでいて子どもの生き生きした活動が保障されている。・幼稚園は大勢の子どもがいてこそ、一人一人の子どもの育つところである。学級全体の子どもの成長を見つめながら、自分の子どもの成長を喜べる保護者であってほしい。・子どもたちが安全で安心して園外保育へ出かけられるように協力していきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討）・アンケート結果「96%」	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none">・研究主題にある「主体的に遊ぶ子どもの姿」を探ろうと、環境構成や保育の援助（支援）を考え、実践し、主体的に遊ぶ子どもの具体で、子どもの思いや感じていることを受け止め、丁寧に見取り、次の手立てを探りながら保育の改善を図ってきた。さらに、子ども一人一人の多様性を見取りながら、個々の子どもが主体的に遊び込む姿を追究していきたい。
分析を踏まえた取組の改善	
	<ul style="list-style-type: none">・多様な子どもの主体的に遊ぶ姿を探るために、保育と預かり保育との連動や個に応じた支援の必要な子ども、2号認定の子ども等について考察し、保育の改善と子どもの変容につなげていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」が、91%から96%に上昇したことからも、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育む保育の充実があったと考えられる。

（2）幼小連携・接続に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・年間交流計画の作成	

- ・通園区域内にある保幼小(中)学校への保育公開及び合同研修
- ・接続カリキュラムの作成と検討
- ・「親子で絵本！」の取組の定着

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・交流の事前・事後の検討
- ・公開保育及び合同研修の回数
- ・「親子で絵本！」のノート活用度
- ・アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめている」

中間評価

各種指標結果

- ・幼中交流と幼小連携会議の実施
- ・「親子で絵本！」のノート活用率「92%」

自己評価

分析(成果と課題)

- ・幼小連携による保育参観や交流は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中、できることに取り組むことができた。1学期授業参観と連絡会の幼小交流を実施し、2学期中旬、二条城北小学校のスポーツウィークを園児が見学交流することができた。
- ・園全体で絵本貸出に取り組んでおり、絵本読書ノートも活用している。
- ・ほとんどの家庭で親子読書をおこなっているが、取り組み方を交流することも大切である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園主催のコンサルテーションを開き、近隣の小学校に参加を促したり、保育参観もいつでも可能なように受け入れ態勢を築いたりして、子どもの学びと育ちを共有する場を保障する。
- ・絵本室の整理や絵本修理などを行い、親子で絵本読書が楽しめる環境づくりができた。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・保幼小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続
- ・「親子で絵本！」のノート活用度
- ・アンケート項目「“親子で絵本！”を楽しんでいる」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・公立幼稚園は小学校、中学校と同様に地域の中にある幼稚園として、さらに子どもの学びと育ちがつながっていくための交流を、三密を避けるなどして積極的に進めてほしい。
- ・小学校で使用している100冊読書ノートを公立幼稚園でも活用していることは、幼小が繋がっていく上での良い取組である。
- ・この時期ならではの親子読書を、コミュニケーションツールとしてさらに活用してほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・幼中交流と幼小連携会議の実施
- ・「親子で絵本！」のノート活用率「96%」

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・1月29日(金)に保幼小連携公開保育を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる緊急事態宣言(1月13日)発出のため、公開保育はかなわなかつたが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と年長児の幼小接続を視点にした年間指導計画を資料提供することで、子どもの学びと成長を中心とした幼小接続の大切さについて再確認することができた。

	<p>きた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二条城北小学校の1年生と年長児の交流では、ビデオレターやテレビ会議システム等を活用した新たな交流方法で実施することができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児の入学する各小学校との幼小連絡会を100%実施するようにしたい。 ・昨年度は、「親子で絵本！」のノート活用率が100%だったのに対し、96%であったことから、全家庭が「親子で絵本！」のノートの活用100%になるよう工夫しながら改善したい。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児が安心してスムーズに小学校に行くためにも、円滑な幼小接続に向けて、子どもはもちろんのこと教員の交流も含め、今後も定期的・継続的に幼小連携の取組を進めてほしい。 ・直接体験に基づく幼小連携は大切であるが、ICT機器を活用した幼小連携も推進していってほしい。 ・「地域の子どもは地域で育てる」という理念のもと、二条中学校ブロック単位を中心に、幼小中の連携は、必要かつ必然であり、今後も地域としてはできる限り協力・応援していきたい。
--	---

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程に係る教育時間外（預かり保育）の指導計画の見直し <p>*教育課程内の活動との関連を図りながらの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な資源の活用 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育の活動や指導計画の見直し状況 ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育の活動や指導計画を随時見直す ・アンケート項目「92%」
	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、三密を避けたり、消毒を施したりするなど、取り組んできた。 ・2学期から参加人数が増えてきている。 ・教育時間内の保育内容を見据えながら、預かり保育の活動内容についても随時見直してきた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動内容や方法を見直すとともに、実施可能な取組を進めていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時までの預かり保育参加人数 ・預かり保育の活動内容や指導計画の見直し状況

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「喜んで預かり保育に参加している」
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと、預かり保育利用者が増えてきていると思う。家庭での三密を避ける、マスク着用する、健康観察の徹底などの理解と協力をお願いしたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育の活動や指導計画を隨時見直す ・アンケート項目「92%」
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からは、子育て支援としての意味合いで役立っている。 ・担任と預かり保育担当者は、子どもの様子の情報交換をはじめ、隨時預かり保育の活動内容についても話し合い、実施し、検討・見直しを図ることができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多いときは安全面でリスクが高くなると考えられる。そのため、部屋の環境の安全点検と確認、人員配置と活動内容の見直しは絶えず行うようとする。 ・必要な物品を購入・準備するようにする。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児数が減少している状況のもと、預かり保育は園児獲得の重要な取組であると理解できる。安定して良好な預かり保育が継続するよう内容等工夫して行ってほしい。 ・以前のヨガインストラクターやサッカーコーチなど、必要であれば地域人材を活用することもできる。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (七夕のつどい、運動会、クリスマスの集い、水遊びへの参加など) ・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケート実施
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組 回数；13回 参加人数；延べ188人、教育相談件数；15件 (4～9月) ・未就園児保護者に対するアンケートの実施
--	--

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> 6月の保育再開より、子育て支援の取組では、0～3歳児親子のひよっ子クラブ（毎週月・金曜日）や未就園3歳児親子のいちご組（月～木曜日）を通して、子育てについての教育相談を毎日行うことができた。 ひよっ子クラブでは、年々3歳児親子の参加が減少してきている傾向が見られる。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシやポスターの配布、区役所内のチラシ配架などより広報活動に取り組んでいく。 「上京区民ふれあいまつり2020」において、公立幼稚園の取組を上京5園プロモーションビデオ動画配信して積極的に広くアピールする。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 未就園児保護者に対するアンケートの実施

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取組回数；25回 参加人数；延べ485人、教育相談件数；29件（10～3月） 未就園児保護者に対するアンケートの実施
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言発出以外の月曜日と金曜日は、子育て支援ボランティアの協力により、0歳～3歳のひよっ子クラブや未就園児親子のいちご組（毎日）を通して、子育て支援に関わる教育相談を継続して行うことができた。ひよっ子クラブにはかなり多くの参加者がいるものの未就園児親子のいちご組の入級者は7名と少ない。 新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言発出以外の月曜日から金曜日の9：30～15：00（12：00～13：00を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用が多かった。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が減少傾向にある点については、教育委員会と公立幼稚園全体で公立幼稚園紹介プロモーションビデオを作製し発信していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 未就園3歳児いちご組親子の登録の減少は、令和元年10月に始まった幼児教育の無償化と待賢幼稚園が2年保育であることが大きな要因だと考えられる。 子育て支援の取組に対して、今後も地域やOBが協力・応援していきたい。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組

○学校運営協議会3企画委員会の取組の検証

A. 親子の学びプロジェクト

- ・カレーパーティ、もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。

B. からだ元気プロジェクト

- ・親子遠足・夏季プールの開設、運動会の競技、冬のマラソン、預かり保育によるキッズサッカー
- ・キッズヨガ体験等を行う。

C. 連携プロジェクト

- ・幼小交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、待賢カーニバル、お茶体験、敬老交流会等を行う。

○地域資源を活かした指導計画の作成

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・交流の回数や地域の方々の声

- ・アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」

中間評価

各種指標結果

- ・交流の回数や地域の方々の声

- ・アンケート項目 「80%」

自己評価

分析（成果と課題）

- ・例年行われている地域主催の「待賢カーニバル」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になり、子どもや保護者と地域の方たちとの交流の場が減少した。
- ・例年行っていた「たいけんグリーンストア」は、シールドを設置したり、1週間行ったりなどして、「グリーン・グリーン・ウィーク」を開催し、保護者や地域の人々との交流の場をもつことができた。
- ・敬老の日にちなんで、お年寄りに園児からお手紙を出すことができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・地域行事参加や協力体制の在り方については、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染防止対策も考慮し、地域とのつながりを大切にしながら、今後PTAにおいて毎年検討し改善を図っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・交流の回数や地域の方々の声

- ・アンケート項目 「子どもは幼稚園での取組の中で地域や地域の人に親しみをもっている」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・2年保育の本園は、幼児教育無償化実施により今後園児減少が大変懸念される。
- ・地域とつながりの深い公立幼稚園は、小中学校との連携協力を密にしてさらに取組を進めいく。
- ・「待賢カーニバル」については、これからも三密を避けるなどして実施できるように働きかけ、地域とともにPTAOBも協力支援していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や地域の方々の声 ・アンケート項目 「85%」 	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言発出により餅つきを中止にしたり, マラソン大会を朝体操に変更したりするなど例年通りの取組ができなかつた。それに伴い, 学校運営協議会おやじの会, 地域の人や保護者の協力を得られなかつた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・検温, マスクの着用, 手指消毒の徹底, そして三密を避けて取り組んだり, TV会議などICT機器を活用して実施したりするようにする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな成長を見届けていくうえで, 地域とのつながりが深い公立幼稚園, 公立小中学校との連携は必要あり, 今後も工夫を凝らし継続して取組を進めてほしい。 ・コロナ禍のなか, 人を集められない, 市中感染がどうなつてているのか見えないなどの状況にあり, ICT機器を活用した人と人とのつなぐ取組は有効であり積極的に活用すべきである。今後このような状況は, 増えていくだろう。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標
教職員一人一人が勤務時間を意識し, 子どもと向き合う時間を十分に確保する。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園行事の見直しと精選 ・会議の精選と会議時間の効率化 ・ノー残業デー (毎水曜日) と 18 時までの電話応対時間の徹底 ・校務支援員活用による検証
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間 「平均 40 時間未満」 ・年休取得 「5 日以上」

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間 「平均 23.6 時間」 ・年休取得 「5.1 日」 	
自己評価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から, 4月と5月が休園になり, 園児の登園しないこの時期に, 積極的に年休取得することができた。 ・毎水曜日はノー残業デーと共に職員朝礼をしない日に設定し, 勤務時間厳守につなげている。 ・2年保育の小規模園で教職員の異動は, 一部教職員の仕事量が増加する傾向になりやすい。 ・校務支援員や退職教職員ボランティア配置などは, 教職員の負担感軽減と時間外勤務時間縮減につながっている。

学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策の観点が加わり、全ての取組を残すか削るかの従来の「量」的発想から、「何のための活動か」という「質」的発想へと転換して、前年度踏襲とせず、その都度確実に見直し実行する。 ・園行事は、全教職員がチームとなって行う。 ・勤務時間外の時間を縮減するために、業務終了時刻は、水曜日を除き 19 時とする。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・5 日以上の年休取得
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園が電話応対時間を 18 時までとしていることが、働き方改革の一環として地域にも広く浸透してきている。 ・保育充実のために、働き方改革を進めるうえでは、来年度以降も校務支援員が複数配置されることを強く願う。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間 「平均 19.3 時間」 ・年休取得 「12.4 日」
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言発出に伴う休園のため、在宅勤務や年休取得が進み、時間外勤務時間の縮減と年休取得の上昇につながった。 ・前年度に引き続き毎水曜日は職員朝礼を行わず、ノー残業デーとして早く帰宅するように取り組んだ。 ・校務支援員の継続配置並びに増員は、保育充実に向かう教職員の負担感軽減や時間外勤務縮減に大いに効力を發揮している。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育充実のため、眼前の子どもの実態を見極め、行事や取組は例年通りではなく、必ず見直しながら進める。 ・園行事や取組については、全教職員でチームとなって取り組む。 ・時間外勤務時間縮減のため、業務終了時刻を原則 18:30 とする。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用倍率が低くなっている状況は、日本の将来にかかる大きな課題である。教職員の働き方改革は必ず遂行されなければならない重大な課題である。そのためには、今後も校務支援員の継続配置や増員するなど、必要である。